

# Mission Vision 2035 第2次中期計画

## 2026年度事業計画書

〔事業年度：2026年4月1日～2027年3月31日〕



学校法人 福岡女学院  
SCHOOL CORPORATION FUKUOKA JO GAKUIN

## 目次

Mission Vision 2035 第2次中期計画 –2026年度 事業計画について–	2
I.福岡女学院(法人)	3
II.福岡女学院大学	5
III.福岡女学院看護大学	8
IV.福岡女学院高等学校・中学校	12
V.福岡女学院幼稚園	15

## Mission Vision 2035 第2次中期計画

### －2026年度 事業計画について－

福岡女学院は1885年(明治18年)に米国メソジスト監督教会から派遣されたジェニー・ギール宣教師により創立された英和女学校から始まり、2025年に創立140周年を迎えました。創立以来今日まで、キリスト教教育を基とする女子教育を実践し、現在は幼稚園、中学校、高等学校、大学、看護大学、大学院を擁する総合学園となっています。これまで多くの困難な状況を経験しながらも、今日まで教育事業を継続できたのも、福岡女学院の運営と経営に携わった先達の尽力と、支えてくださっているすべての皆様のおかげであり深く感謝いたします。

2026年度は第2次中期計画第2ステージの第2年目であり、創立150周年となる2035年に向けた経営戦略「Mission Vision 2035」によって着実な前進を図り、学校運営及び法人経営の強化に取り組んでまいります。法人及び各学校における年度事業計画は、教育の理念、教学運営、組織運営、園児・生徒・学学生在籍者数計画、教職員人事計画、財務・施設設備計画の五つの分野における中期事業計画の基本事項と重点目標を基として策定しています。

特に今年度は、法人においてはそれぞれの学校の運営や改革の支援、ICT・AI活用による事務効率化、大学においては構想中の新たな学部や学科のカリキュラムや施設設備の準備、看護大学においてはシミュレーション教育をリードする看護大学としての機能向上、就学環境のさらなる整備、中学・高校においては大学・看護大学・幼稚園との連携強化や公立中学校・塾への渉外による広報強化、さらに幼稚園においては保育環境の見直しと改善による保育実践や地域子育て支援活動など、そのほか多くの計画を実践してまいります。

2026年度事業計画の遂行に教職員一同尽力してまいります、引き続き皆さま方のご支援をよろしく願い申し上げます。

2026年3月

学校法人 福岡女学院

理事長 廣田 りょう

院長 守山 恵子

## I.福岡女学院(法人)

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>I 教育の理念</b>		
1.建学の理念の継承 2.キリスト教の精神を基盤とした女子教育の継承(各学校の理念は、学院の建学の理念の下にある。) 3.学院が目指す人間像 「イエス・キリストにつながれて、愛をもって神を畏れ隣人と共に生き、豊かに実を結ぶ人間」 (1)礼拝の堅持 (2)キリスト教教育の充実 (3)キリスト教教育を支える教職員への牧会	1.年間方針の決定 2.教職員の礼拝出席者数増加 3.教職員への牧会活動	1.建学の理念の継承
		2.年間方針及び年間聖句の決定
		3.キリスト教センターの機能強化
		4.教職員の礼拝出席者数増加
		5.教職員への牧会活動
<b>II 教学運営</b>		
1.地域・社会に貢献する教育機関としての維持・強化  2.理事会と各学校長との連携強化	1.総合学園としての機能強化支援 2.時代に対応可能な柔軟で強固な修学環境整備 3.いつでも、どこでも、誰でも学べる「あらゆる災害に対応可能な教育システム」の整備	1.地域・社会に貢献する教育機関としての維持・強化
		2.総合学園としての機能強化支援
		3.時代に対応可能な柔軟で強固な修学環境整備
	1.学校長会議の運営、その他教学関係審議機関の設置	1.教育改革推進のための会議を設置
		2.学校長会議の毎月開催
		3.教学担当理事と学校長の連携強化
<b>III 組織運営</b>		
1.私学法改正に基づく新理事会、評議員会の構成	1.適切な第三者評価システム(ガバナンス強化)との透明性の強化	1.理事会、評議員会の適正な運営
2.学内での教育改革推進体制の構築	1.学校運営のガバナンス強化への支援	1.学校運営のガバナンス強化への支援
		2.学校長を中心とした学校運営及び学校改革の支援
3.事務局の姿 いかなる環境下においても教育の機会・質を守り、学生・生徒・園児、また、地域社会のため、学院の発展に貢献できる組織	1.教職員の就業環境、キャリアアップシステム整備 2.就業環境改善のためのシステム整備 3.事務局の業務運営改善	1.教職員の就業環境、キャリアアップシステム整備
		2.新しい働き方の実行
		3.事務局の業務運営改善の推進

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
4.求める職員像 学生・生徒・園児、また地域社会のため、積極的に学院の発展に貢献できる人材・変化するニーズや問題点を論理的に分析し、新しい価値を創造できる人材・仕事にやりがいと誇りを持ち、他者と協力して業務に取り組むことができる人材	1.事務の効率化推進 2.事務局の組織力の活性化 3.学院のブランド力アップのための検討	1. I C T・A I 等を活用した事務の効率化推進
		2.事務局組織力の活性化
		3.学院のブランド力アップへの提言
5.学院創立記念行事の計画	1.学院創立記念行事及び年史の計画	1.年史編纂委員会の設置・開催 2.140年史編纂作業の実行
6.危機管理体制の確立	1.危機管理マニュアルの整備	1.危機管理委員会の開催
		2.危機管理マニュアルの整備
<b>IV 学生・生徒・園児在籍者数計画</b>		
1.コロナ前の4,000人規模の学生・生徒・園児数への復活	1.各学校収容定員を超える募集対策の確立	1.学則定員の確保
		2.募集広報体制の強化
<b>V 教職員人員計画</b>		
1.各学校の教員、事務局職員の適正人員の検証	1.全学院的に人件費をコントロールする機能の構築	1.学院全体の適正教職員数の検証
		2.学院全体での人件費コントロール
<b>VI 財務・施設設備計画</b>		
1.健全な運営を支える財政基盤の強化	1.健全な運営を支える財政基盤の強化	1.健全な運営を支える財政基盤の強化
2.「独立採算」を意識した健全な運営		
3.施設設備更新年次計画の検証	1.財務シミュレーションに基づくキャンパスマスタープランの再構築	1.財務シミュレーションに基づくキャンパスマスタープランの見直し
		2.ハワイ記念館改修の実行
		3.大学新校舎の設計・準備

## II. 福岡女学院大学

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>I 教育の理念</b>		
1.理念と目的 第2次中期計画を本学の長期的発展の土台を作る期間として設定し、大学の社会的評価を向上させる具体的な計画と目標を設定する。この中で、本学のビジョンと学則の整合性の再確認、キリスト教教育のさらなる充実など、基本的な指針について4年間の具体的目標・施策を年次計画として策定する。	1.本学は「イエス・キリストにつながり、愛によってつながり、希望を持って、社会へ未来へつながる」というビジョンのもと、「神を畏れ奉仕に生きるよき社会人としての女性の育成」を掲げ、本学の特色である少人数教育により、学生が社会的課題を解決する力を身につけ、社会の発展に寄与できる人材を育成することを目標とする。	1.理念と目的の点検・評価・改善 「女子教育」の意義の検討 策定 2.理念と目的の共有促進 大学の「ヴィジョン」の共有促進
<b>II 教学運営</b>		
1.教育課程・学修成果 本学の理念と目的を達成するための教育課程の不断の改革と改善によって、地域社会に必要とされる人材育成を目指す高等教育機関としての責務を遂行する。また、その成果を可視化し検証するための適正な学修成果の評価に関するシステムを構築する。 2.学生支援 学修者本位の修学環境の整備するために学生の学修支援に加えキャリア支援・就職支援等を充実させ、総合的な人材育成としての支援体制を構築する。 3. 社会貢献・社会連携 地域に根差し地域の必要とされる大学であることを目指し、大学としての地域貢献や人材育成の在り方を地域とともに模索しそのための社	1.第2次中期計画における本学の改編計画の進捗及びそれに付随して必要となるポリシーの再検討や教育課程編成の改善(基盤教育及び全学共通プログラムの導入、大学間連携、外国語教育の改善など)について具体的な施策を年次計画として明確化し、着実に実施していく。 2.学生支援の基本となっているキャリア支援や進路支援のさらなる充実に加え、学修支援や生活支援についての支援の実施体制を整え、学修者本位の学修環境の向上へ向けた具体的な施策を年次計画として明確化し、着実に実現して行く。 3.地域に根差し地域に必要とされる大学であることを実現するために、地域社会連携事業の一層の充実を目指し、それを実現するためのセンター等の実	1.2027年度カリキュラムの策定(最終段階) 1)学部・学科カリキュラム詳細決定 2)基盤教育カリキュラム詳細決定 3)MDASH(応用基礎レベル)導入体制整備 4)感性メディア学科のカリキュラム実施最終点検 5)情報工学部の大学間連携検討とカリキュラム策定 2.地域に根差した大学の在り方の検討 1)地元自治体・企業等との連携の点検・評価・改善 3.学修意欲向上を促す教育プログラム導入 1)教育プログラム試行と点検・評価 4.アセスメントプランの点検・評価・改善 1)学修成果可視化システムの点検・評価・改善 2)学生による自己評価システムの始動 5.学修者支援 1)学修者支援全体の点検・評価・改善 2)Student Assistant制度の活用始動 6.内部質保証システムの点検・評価・改善 7.子ども発達学科・国際キャリア学部魅力度向上タスクチームからの報告等を踏まえた教育の

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<p>会連携のあり方を構築する。</p> <p>4.内部質保証 内部質保証の方針及び手続に基づく、内部質保証システムの有効性の測定</p>	<p>施組織の再編を含めた組織編成のあり方を検討し具体化する。</p> <p>4.内部質保証システムの有効性を測るための検証及び改善の指針策定</p>	<p>検討・評価</p>
<b>Ⅲ 組織運営</b>		
<p>1.教育研究組織 教育課程に定める教育とその成果を具体化することをはじめ、社会の変化に対応した大学の改革を実現する将来計画に基づいた教学運営に係る基本事項の遂行のために必要とされる教育研究組織を適正に管理・運営し、将来へ向けて継続的で安定した高等教育機関としての社会的使命の遂行を可能とする。</p> <p>2.教育研究等環境 教育課程に定める教育とその成果を具体化することをはじめ、教学運営に係る基本事項の遂行のために必要とされる教育研究環境の維持と改良を不断に行い、将来へ向けて継続的で安定した高等教育機関としての社会的使命の遂行を可能とする。</p>	<p>1.教育の質向上を目的とする教育研究組織の在り方に関する将来計画に基づいて、短期大学の募集停止、学部・学科の改編、学部の新設計画を視野に入れた総括的で適正な教育研究組織の編成を目指した年次計画を策定し、計画に沿った実施を行う。</p> <p>2.教育課程の円滑で効果的な実施を支える教育研究等環境の点検を怠ることなく、環境整備と管理運営を円滑に行うために、本学院のキャンパスマスタープランに沿った基本計画を準備し、状況の変化に対応して実施していくことが重要である。第2次中期計画では、図書館の機能改善や各種センターの機能向上を重点課題として設定し、これらの着実な環境改善を年次計画として策定し、また、将来へ向けた環境改善の長期計画を策定する。</p>	<p>1.学内連携体制の点検・評価・改善</p> <p>2.卒業後の社会貢献支援体制の強化</p> <p>1) キャリア教育やソーシャルスキル実装サポートの在り方検討</p> <p>2)正課外資格取得サポート体制の点検・評価・改善</p> <p>3. I T 活用環境整備</p> <p>1)グループウェア活用によるD X 推進</p>
<b>Ⅳ 学生・生徒・園児在籍者数計画</b>		
<p>1.学生の受け入れ 本学の規模に合った適正な学生数の受け入れへの継続的な努力を行いながら、</p>	<p>1.学生確保へ向けた戦略的な広報活動を推進するための方策を定め、全学的に統一した広報活動を実施するとともに、</p>	<p>1.選抜方法の点検・評価</p> <p>1)感性メディア学科の選抜実施方法確定</p> <p>2)情報工学部の選抜実施方法の検討開始と入試制度</p>

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<p>一方では少子高齢化社会への変化を見据えた社会人・留学生等の多様な学生受け入れについても積極的な取り組みを行い、社会に貢献する女子教育機関としての使命を継続的に遂行する。</p>	<p>併せて入学者選抜制度の多様化や拡充へ向けた検討を推進する。入学形態についてはアドミッションポリシーとの整合性を再点検し、受験生に分かりやすく魅力的なものに変更し、その結果として受験への意志を促すものとなることを具体化する。</p>	<p>1)広報戦略の点検・評価・改善・実施 2)広報活動での専門業者活用継続 3.多様な学生受け入れ制度の具体的な実施方法検討の開始</p>
<b>V 教職員人員計画</b>		
<p>1.教員・教育組織 急速な社会構造や機能の変化に対応した高等教育の転換を進め、今後の社会に必要とされる能力・技能を持つ人材育成のための教育課程の変化に対応した教員組織を編成するために適正な教職員人員計画を策定し、着実な実施を推進する。</p>	<p>1.本学の教育に対応する人材確保のために基幹教員制度を導入する。改編計画へ向けた教員の配置計画と2030年度時点での教員の確定計画に基づいた教員配置を着実に進める。</p>	<p>1.教育の質向上を目標とした人員配置 1)基幹教員制度に基づく人員配置計画と遂行 2)実務家教員の積極的活用</p>
<b>VI 財務・施設設備計画</b>		
<p>1.大学運営・財務 高等教育機関としての本学の持続的で安定した教育活動の維持を目指して、それを支える財政基盤の適正化を目指し、必要となる教育設備の整備に努める。</p>	<p>学生定員の確保により財政の安定化を図り、基本金組入前当年度収支差額の増加を目標とする。運営・財務の安定化へ向けた数値目標の策定を行う。</p>	<p>1.財務安定化 1)2027年度収容定員充足率に基づく単年度予算編成 2)中長期財政計画の点検・評価・改善 2.教育・研究環境の整備 1)情報工学部棟建設 2)ハワイ館改修 3)図書館改修計画の見直し</p>

### Ⅲ.福岡女学院看護大学

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>I 教育の理念</b>		
1.キリスト教に基づく豊かな人間性を備えた看護職専門職者の育成	1.キリスト教教育の推進 2.ヒューマンケアリング教育の推進	1.チャペル礼拝の継続、授業との連携等による出席促進
		2.キリスト教会との連携実施
		3.学生主導のチャペル礼拝の実施
		4.クリスマス礼拝
		5.ヒューマンケアリング関連科目の継続
<b>II 教学運営</b>		
1.教育 (1)シミュレーション教育リーディング看護大学	1.学部、大学院におけるシミュレーション教育の推進継続 2.OSCE導入のカリキュラム整備 3.英語によるシミュレーション教育の継続 4.学生のシミュレーションリーダー育成	1.分野横断シミュレーションの実施
		2.シミュレーション教育関連の学会発表・論文投稿(3本/年)
		3.2年生実習前OSCEの導入
		4.英語によるシミュレーション実施(1回/年)
		5.学生シミュレーションリーダー育成(10名以上/年)
		6.BLS国際ライセンス取得者(100名/年)
(2)教育の質の向上(認証評価に向けて教学マネジメント体制の整備)	1.ミッションタウンの活用推進とブラッシュアップ 2.新カリキュラム検討準備委員会継続 3.実習科目の授業評価(学生の意見)を活用した改善点の検討 4.多様な価値観理解につながる国際交流活動の推進 5.看護師保健師国家試験合格率100% 6.教育DX推進 オンライン教育の充実(教材配信、オンデマンド授業、双方向リアルタイム授業) 7.学習成果の可視化によるカリキュラム評価 8.教職員の教育力向上 9.大学院教育の充実	1. ミッションタウンブラッシュアップ、利用科目の増加
		2.カリキュラム改正の検討(新モデルコアカリキュラム導入準備)
		3.学生の授業評価の実施と評価
		4.臨地実習施設連携協議会からの意見聴取と改善点検討
		5.海外研修の充実(オーストラリアQUT研修、香港メトロポリタン大学研修)
		6.多言語医療支援コースの充実
		7.看護師、保健師国家試験対策(補講、模擬試験、成績分析等)の継続
		8.オンライン教育の実施状況調査
		9.オンライン教育に対する学生の満足度調査
		10.電子教科書に関する情報収集
		11.AIに関する教育方針の策定
		12.重要6科目のDP主観的・客観的評価とディプロマサブリメントの継続
		13.各学年DPルーブリック評価の作成・実施・評価
		14.学生授業評価結果に基づく課題の改善につながるFD/SD研修の実施

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
		15.修士論文の指導および審査
		16.大学院博士課程開設の検討
(3)学生等への支援(就学環境整備・健康管理)	1.食堂の継続 2.学生の通学方法の利便性向上(スクールバス、自家用車) 3.心身の健康促進に向けた支援体制の整備 4.学生生活支援に関する満足度の向上 5.ハラスメント対策の継続 6.進学・就職率100%	1.食堂の継続 2.スクールバス継続 3.学生自家用車許可継続 4.スクールカウンセラーとの連携 5.保護者との連携(懇談会2回/年) 6.保護者用UNIPAサイト開設(成績開示、開講計画の開示) 7.学生生活支援満足度調査の実施と課題抽出、改善点の提案 8.ハラスメント対策の継続 9.アドバイザー、委員会による学修・就職支援の継続
(4)学生・教職員連携制度強化	1.学生代表陪席委員会の増加検討 2.学生・教員・職員懇談会整備継続	1.学生代表陪席委員会の増加(2委員会以上) 2.学生・教員・職員懇談会継続(2回/年)
2.研究 (1)研究活動の促進 (2)研究方針の規則整備 (3)研究倫理教育 (4)紀要発刊	1.外部資金、助成金等申請(80%以上) 2.外部資金、助成金等採択者率25%以上 3.研究時間の確保 4.若手研究者支援 5.公的研究費に関するコンプライアンス教育および啓発活動の実施 6.紀要の査読	1.科研費申請、採択者対象の研修会実施 2.科研費、外部資金獲得の支援実施(チームリーダー) 3.週2コマの研究時間の確保 4.若手研究者支援研究費申請制度の運用 5.学内研修会の開催(大学院授業の聴講促進) 6.ヒューマンケアリング教育に関する研究の推進 7.公的研究に関するコンプライアンス啓発活動実施(4回/年) 8.研究倫理教育教材の受講(100%) 9.紀要の投稿、査読の継続 10.紀要発刊(1回/年)
3.社会連携・社会貢献 (1)看護職者の育成 (2)看護教育者・指導者の育成 (3)市民への健康教育 (4)国際交流の推進 (5)高大連携の強化 (6)ボランティア(キリスト教	1.看護職者となる卒業生輩出100% 2.教員の社会貢献活動の維持拡大(前年比アップ) 3.シミュレーション教育者養成セミナーの継続(50人以上/年) 4.シミュレーション教育センター開放の継続	1.教職員・学生の社会貢献活動の実績の集約と評価 2.シミュレーション指導者育成セミナー開催、シミュレーションセンター見学者増 3.臨地実習施設連携協議会開催 4.公開講座と防災セミナー開催(2回/年) 5.古賀市・福津市・福岡女学院看護大学連携協議会開催

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
教育活動等)の推進	5.公開講座の継続(20回/年) 6.国際交流の継続 7.高大連携活動の充実 8.学生ボランティア活動の推進	6.海外研修および海外の大学との交流の継続(オンライン、対面含む)(2回/年)
		7.中高生への模擬授業実施(福岡女学院高校含)
		8.高大連携校との事業の運用
		9.高大連携校の増加(1校以上)
		10.ボランティア活動情報提供
		11.クリスマス献金(1回/年)
<b>Ⅲ 組織運営</b>		
1.組織運営組織力の強化 (1)教育組織改変、改組 (2)各種委員会の見直し・改変 (3)内部質保証(PDCAサイクル)の推進 (4)外部評価	1.適正な教育研究組織の検証 2.自己点検・評価委員会による各委員会活動の点検・評価の継続 3.中期目標および事業計画に基づいた委員会活動 4.内部質保証システムの再構築、検証、評価 5.外部評価の継続	1.教員の自己評価表の運用・検討
		2.教員選考基準(昇任・採用基準)の見直し継続
		3.大学院教員資格審査基準作成と実施
		4.教育研究組織の点検
		5.各種委員会の権限、役割の明確化と改変
		6.運営方針の点検・評価、改善策提案
		7.内部質保証システムの課題抽出と改善計画立案、実施
		8.各種委員会の年間PDCAサイクルの実施と点検、評価
		9.古賀市・福岡女学院看護大学連携協議会の継続(1回/年)
		10.臨地実習施設連携協議会の継続(1回/年)
		11.新規外部評価委員会の開催(1回/年)
<b>Ⅳ 学生・生徒・園児在籍者数計画</b>		
1.アドミッション・ポリシーに則った学生の受け入れ 2.社会の状況に応じた入学試験制度 3.学部・大学院入学者の確保 4.ニーズに応じた広報活動	1.アドミッション・ポリシー、社会の状況に応じた学生の受け入れの検討 2.効果的なニーズに応じた広報活動	1.アドミッション・ポリシーに則った学生の受け入れに向けた、試験内容、回数の運用
		2.総合型選抜導入、一般入試受験生の多様な視点による評価方法の妥当性の検証
		3.入試制度の改善継続(指定校推薦規則の見直し、入試日・試験方法の見直し、募集区域の拡大)
		4.広報活動の活性化 (1)オープンキャンパス、ミニオープンキャンパス、大学見学会参加者500名超え (2)学外ガイダンス参加、HP、SNSの活用(インスタ登録者1000名超) (3)在籍者・入学者分析と広報活動戦略立案実施
		5.入学生の確保 学部入学者：110名、競争倍率1.1倍以上 大学院入学者：3名

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>V 教職員人員計画人事・労務管理の適正化</b>		
1.中長期計画に沿った適切な人員配置計画の検討 2.教職員の健康の保持増進 3.職場環境の整備 4.負担軽減・効率化を目指した業務改善	1.学生数に応じた適正な人員配置の検討 2.衛生委員会の機能強化 3.ハラスメント対策 4.教職員の役職に応じた業務量の調整	1.教育助手配置の検討
		2.退職者の補充
		3.産業医との連携強化(会議開催、職場巡視、心身の健康管理の啓発)
		4.ストレスチェックと産業医面談
		5.職場環境ニーズ調査
		6.労働環境の研修会実施
		7.ハラスメント実態調査と研修
		8.教職員の業務改善の課題抽出と検討
		9.計画的な業務遂行、他組織との連携
<b>VI 財務・施設設備計画</b>		
1.独立採算制を基本とする健全な運営、競争的資金獲得による自治運営力強化 (1)自己収入及び外部資金の獲得 (2)経費の効率化 (3)資産の適正管理及び有効活用	1.科研費、補助金、助成金獲得に向けた計画と実施 2.経費節減と効率化の継続 3. 5.5(人件費)：3(教育・管理経費)：1(減価償却費)：0.5(備蓄) 4.積み立て目標5000万円 5.学生数と連動した予算編成の継続 6.施設設備等計画と実施	1.自己収入及び外部資金の獲得
		2.科研費、補助金、助成金獲得に向けた改善計画と実施
		3.各関係部署(委員会等)の連携・協力強化
		4.予算の構成方針に基づく予算立案
		5.実習消耗品の分野間の共有利用
		6.施設設備等整備計画(概算金額)
		7.学生数と連動した予算編成の継続
		8.光熱費削減の取り組み
	施設設備等整備計画(概算金額)	1.3号館空調設備64,240千円
		2.LED照明交換28,600千円(補助金1/2活用予定)

## IV.福岡女学院高等学校・中学校

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>I 教育の理念</b>		
建学の精神であるキリスト教主義により、神と隣人への愛と奉仕の精神に基づき、女子教育を行う。シンボルワード「大切なひとり」によって、主体性・多様性・協調性・一体感を自己有用感とともに感じさせる。	1.キリスト教教育の堅持・推進	
	(1)宗教教育の理解醸成	①ミッション・スクールとして日々の礼拝、宗教行事の堅持。礼拝や宗教行事への教職員参加促進と関係者への開放促進。
	2.建学の精神の堅持・理解深化	
	(1)「福岡女学院ならではの」感の追求	①年度当初に校長による学校運営方針の説明を実施。 ②スクール・ミッションとスクールポリシーの実践継続。
<b>II 教学運営</b>		
生徒が知識を獲得、拡張、洗練、応用できるよう育成して、キャリア・芸術・グローバル教育により、想像力やコミュニケーション力を培うことで、確かな学力(思考力・判断力・表現力)も身に付けさせる。総合学園という多様な環境を活かして、特色ある中高一貫教育を行い、ICT環境の更なる活用、主体的で対話的で深い学びの場を形成して、探究的な学びの充実を図る。	1.教育活動の充実	
	(1)生徒の諸活動の支援(「大切なひとり」としての主体性と多様性の醸成)と多様な教育活動の支援(協調性と一体感の醸成)	①生徒個々の正課・正課外諸活動、生徒(グループ・団体他)、教職員の諸活動の支援・共有。表彰制度の活用。
	(2)キャリア教育の推進	①「凜として花一輪プロジェクト」を中心とした探究学習の推進。卒業生・社会人とのつながり創出。
	(3)系列学校との連携推進	④大学・看護大学・幼稚園との協力深化、協議の継続。
	2.教育環境の整備	
	(1)ICT環境等への安定的対応	①生徒のタブレット所持と合わせた、端末管理や生徒のスキルに応じた校内ルールの運用。
	(2)新校舎建替を契機とした校内施設設備・備品等整備	④新校舎、改修施設に応じた備品等の整備継続。
	3.ステークホルダーとの連携・地域貢献の充実	
	(1)保護者(後援会)・卒業生(同窓会)との連携強化	①教育的配慮の必要な家庭(保護者)への支援。後援会・同窓会との交流の継続。
	(2)地域(産官学含)との連携強化	①協定締結先との交流促進、生徒成長にもつながる地域貢献協力推進。
	4.校務支援システム等の安定的運用	
	(1)校務支援システムの有効活用推進	①校務支援システムの各種機能、連絡体制の安定的運用による利便性向上。
(2)校納金・勤怠・連絡システム等の活用推進	①経費節減と利便性を実現するための各種システムの活用。	

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>Ⅲ 組織運営</b>		
<p>学習指導、生徒指導、部活動指導、保護者対応等の多岐に及ぶ業務を、教員個人が知識・技能を高めつつ、学年、部、そして管理職者が連携することで、効率・効果を高められる組織、雰囲気づくりを行い、働き方と働きがいを高める。</p>	1.教員の資質・指導力の向上	
	(1)教員目標管理シートの活用・研修の奨励	①目標4項目の目標設定と自己評価の継続。校長による支援実施。管理職者による教員面談等による支援。
	(2)授業評価の実施と改善取り組み	①授業評価アンケートと入学後・卒業時アンケートの実施とフィードバック、取り組み実践の共有。
	2.教員組織力の向上(教育内容の充実)	
(1)適切な校務分掌と委員会活動の充実	①教科・学年・委員会・部活動等のバランスに配慮した人員の配置。委員会活動の内容精査。	
(2)カリキュラム委員会と学年・教科との連携・進路指導の強化	①学習・進路指導に係る教員連携と進学実績向上の取り組み。	
<b>Ⅳ 学生・生徒・園児在籍者数計画</b>		
<p>現状を踏まえつつ、収支均衡に配慮して、計画達成に最善を尽くし、入学者増加、学則定員充足を目指す。</p>	1.生徒数在籍者計画の策定	
	(1)生徒数目標の設定	<p>①2027年度中学入学者80名(1月入試；75名、2月入試；5名)。 ②2027年度高校専願入試入学者75名(普通科50名、音楽科25名)。 ③2027年度高校一般入試入学者15名(普通科15名)。</p>
	2.広報活動の充実<生徒数在籍者計画>	
	(1)ホームページとSNS配信の充実	①WEBの活用継続と行事等の魅力ある案内チラシ・プリント作成にて認知効果を高める。
(2)広報行事の充実	①既存の広報行事の検証と新規行事の検討、実施による接触者数増加を図る。 ②広報業務スーパーバイザー配置検討。	
(3)中学校・塾との関係強化	①公立中学校、塾訪問を中心とした渉外活動、公立中学校の本校見学会、校長講師派遣による交流促進の継続。異校種交流の実施。	
<b>Ⅴ 教職員人員計画</b>		
<p>教職員人員中期計画に基づく教員配置。</p>	1.財務状況を踏まえ収支均衡を念頭に置いた教員人員計画の策定・執行	
	(1)教職員人員計画の確認、必要な計画の策定	<p>①総教員50名設定。 ②クラス数変動にも対応できる人員計画の協議を実施。</p>

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>VI 財務・施設設備計画</b>		
財務状況を踏まえて収支均衡を念頭に置いた対応を行う。老朽化が進む中、生徒の安全に配慮した施設設備の建替、改修を行う。	1 財務状況を踏まえ収支均衡を念頭に置いた各種取り組みの実施	
	(1)経費節減と収支均衡に向けた計画・執行	①財政状況を配慮した予算策定・執行。コスト削減と補助金獲得に留意した取り組み継続。 ②奨学費制度の検証と新制度等の検討の実施。
	(2)建設等計画への対応	①2026年度大型プロジェクト予算による体育館空調工事計画(予算申請事項)の実行。
	(3)かがやく応援募金とかがやく基金への適切な対応	①かがやく応援募金活動への適切な対応、連携。スタンドグラス設置等、かがやく基金の活用。

## V. 福岡女学院幼稚園

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>I 教育の理念</b>		
1.キリスト教保育の堅持・推進 2.自然環境を生かした遊びを中心とした保育の推進	1.教育理念の堅持・推進	1.保育環境の見直し・改善による保育実践
	2.教職員・保護者の宗教教育推進	1.教会やキリスト教センターと連携しての保護者・教職員の宗教教育推進
<b>II 教学運営</b>		
1.総合学園の特色を生かした幼児教育の推進	1.特徴的カリキュラム等の研究推進	1.特徴的保育の研究と実践の強化
		2.幼小連携活動・カリキュラムの見直し・実践
		3.特別支援体制の研究と実践の強化
	2.礼拝保育カリキュラム研究	1.礼拝保育カリキュラム検証と改善
	3.保護者連携支援の推進	1.保護者の交わり強化・相談業務・参画活動強化
4.ICT化推進	1.業務のICT化推進（個人記録・指導要録等）	
	2.学院内環境を生かした豊かな保育体験・人材を生かした保育・保護者支援の継続	
<b>III 組織運営</b>		
1.教員の資質・指導力および教員組織力向上	1.教員の目標管理シート活用	1.各教員の自己目標とフィードバックの強化
		2.学校評価委員会による適正な評価と研究の実施
	2.リーダー制の確立・業務整備	1.新しい組織体制での主体的な教員組織向上
	3.教員の研修・園内研修の充実	1.研修制度の更なる充実と教員間共有の強化
	4.働き方改革推進組織整備	1.働き方についての教職員の意識の向上推進
	5.法人本部適正業務連携整備	1.人本部事務関連業務・集金業務等連携や業務効率化の検討整備
6.危機管理体制の改善・整備	1.危機管理対策についての検証・必要な対応	
<b>IV 学生・生徒・園児在籍者数計画</b>		
1.地域子育て支援活動の充実と広報活動の推進 2.利用定員数の安定的な確保	1.地域子育て支援活動・広報推進	1.定員(利用定員)の100%充足
	2.HP・SNSによる魅力ある情報整備	1.未就園児保育・子育て支援活動等による園児募集の継続
	3.未就園児保育整備	1.地域子育て支援活動・広報推進
	4.出生数・地域分析による広報の充実	1.特定地域(大野城市・春日市・弥永団地)への広報強化
	5.預かり保育の整備推進	1.預かり保育についての検証・改善実施
	6.知名度向上の為の環境整備	1.幼稚園周辺看板等整備(西側)

基本事項 Mission	重点目標 Vision	2026年度事業計画
<b>V 教職員人員計画</b>		
1.再雇用制度を含む人事関係計画の策定と実行	1.幼稚園再雇用制度制定	
	2.年齢・経験考慮の長期採用計画実行	1.年齢バランス等を考慮した適正な採用計画の実行
	3.質の高い保育の為の教員配置	1.年少々組の保育・特別支援の為の適正な教員配置の実行
	4.業務の効率化と教職員数検証	1.業務改善効率化の推進と教員配置改善
<b>VI 財務・施設設備計画</b>		
1.新制度移行による安定的な財政基盤の確立	1.安定的経営維持	1.収支バランスを考えた適正な処遇改善や設備投資計画の実施
	2.処遇改善・待遇改善推進	
2.教育環境(施設・園庭等)の整備と安全対策強化	1.適正収支による施設設備計画・実行	1.気候変動等時代の状況にあわせた必要教育設備整備 2.保育の質の向上、老朽化対策の為の施設整備
	2.新園舎建築に向けての研究調査	1.新園舎建設に向けての視察・研究及び園庭整備計画検討
	3.すももの木募金を活用した園庭等整備	1.園庭整備将来計画検討